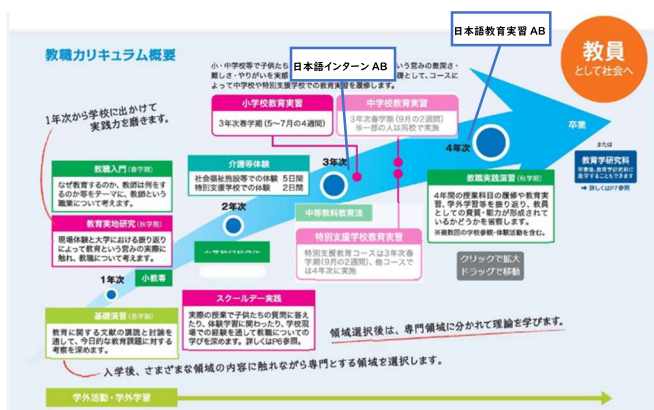


スクールデー実践Cで何を学んだか—「求められる具体的な力」に基づいて—

発表 No. 6 実践研究 河野 (かわの) 俊之 (横浜国立大学)

1. はじめに



3. 結果と考察

●各教科について単元のつながりを理解し、各学年で未習・既習項目が何であるかを知り、実際に目の前の児童生徒等が何を身に付けているかを把握する方法を習得することが重要＝本専門領域の学生が本来、得意とするべきこと

1) 「日本語・教科の力の育成」が多い：「コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。」「サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。」

2) 「子どもの実態の把握」が多い：「エ 認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮してとらえることができる。」

3) 「教師としての成長」はあまりない：「フ 外国人児童生徒等の教育を通して、自身のものの見方を批判的に問い直すことができる。」しかし、「マ 外国人児童生徒等教育の経験を、自身の教師としての成長として意味づけることができる。」等について言及するようになっている。また、今後自身が学ぶべきことが明確になっている

●より効果的なコーチングを行うことや他の座学及び実地の授業の内容や方法を見直したい

「スクールデー実践C」の授業目標：(前略) 子どものかかわりをテーマに、アシスタントティーチャーとして学校現場での授業支援等に取り組む。小・中学校等に週1回で3ヶ月程度出向いて、やや長期的な視点から児童の指導、授業の実践、教員・保護者・地域との連携に関する能力を伸ばす。

2. 方法

日本語教育専門領域2年生5名のうち全回について提出した3名の日誌にある、「新しく学んだこと」「新しく学ぶべきこと」を分析

表2 「新しく学んだこと」と「新しく学ぶべきこと」

資質・能力の4要素	課題領域	求められる具体的な力	
		新しく学んだこと	新しく学ぶべきこと
捉える力	子どもの実態の把握	A:イウエ B:エ C:イウ	A:エ B:ア C:ア
	社会的背景の理解	A:φ B:φ C:φ	A:φ B:キ C:カ
育む力	日本語・教科の力の育成	A:コサス B:コサセ C:ケサス	A:コサシス B:サ C:ケサシ
	異文化間能力の涵養	A:タ B:チ C:φ	A:ソ B:ソタ C:φ
つなぐ力	学校づくり	A:φ B:テナ C:φ	A:φ B:φ C:φ
	地域づくり	A:φ B:φ C:φ	A:φ B:φ C:φ
変える／変わる力	多文化共生社会の実現	A:φ B:φ C:φ	A:φ B:ヒ C:φ
	教師としての成長	A:φ B:ホマ C:マ	A:φ B:φ C:フ